

令和8年（2026年）6月12日

教頭

令和8年度（2026年度）第1回学校運営協議会 報告書

1 目的 道立学校の運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する機関として、保護者及び地域住民等が学校運営に参画し学校との連携を強めることにより、学校と保護者及び地域住民等が信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善並びに生徒の健全育成を図ることを目的とする。

2 日時 令和8年（2026年）6月11日（木）16:00～17:30

3 場所 北海道津別高等学校 多目的教室

4 出席者 〈学校運営協議会委員 敬称略〉

上野 真 司（※1）
河本 純 吾（※1）
立川 彰（※1）（欠席）
笠川 早 苗（※1）
長瀬 加寿哉（※1）
野原 卓（※2）（欠席）
佐藤 久 哉（※3）（欠席）
谷口 正 樹（※4）（欠席）
迫田 久（※4）（欠席）
三村 文 弥（※6）
森本 邦 紀（※6）
高橋 剛（オブザーバ参加）

〈学校・各部会担当者〉

校長 島 村 真 幸
教頭 宮 田 大 史
教諭 山 本 衛
小堀 健 介

注）（※1）地域住民
（※2）生徒の保護者
（※3）運営に資する活動を行う者
（※4）行政機関の職員
（※6）学識経験者

5 議 事

- (1) 辞令交付
- (2) 会長挨拶
- (3) 令和8年度学校経営方針について（校長）
- (4) 令和8年度学校概要について（教頭）
- (5) 令和8年度における個別具体の取組について [各部会（生活・学習）担当者]
- (6) 意見交換
- (7) その他



6 熟議内容

【「津別高校ブランド」の確立とPR強化】

- ・「小規模＝選択肢が少ない」という負の認識を、「大規模校より有利（個別指導、推薦入試、地域活動）」というポジティブに転換し、高校のブランドイメージを好転させる。
- ・ICTを活用し、学校紹介動画の作成や、生徒自身によるSNS・ポッドキャストでの発信を強化し、中学生の目線に立った広報を行う。
- ・小中学校との連携について再考。高校生(先輩)が活躍している姿を子どもたちに見せる機会を増やす。そこからさらに発展させ、高校生が中学生のサポートや指導ができるような中高連携での事業を立ち上げる。探究の時間などの活用が考えられる。

【広域募集と流入経路の開拓】

- ・近隣の陸別町、置戸町、訓子府町の中学校を直接訪問し、通学バスの利用などを提案して生徒を呼び込む。
- ・東京農業大学との連携を深め、特産品の「ハッカ」栽培やエコツーリズムの研究など、1次産業から3次産業を繋ぐ新しい「つべつ学」への発展を図る。

【部活動の柔軟な運用と地域展開】

- ・生徒の強い要望に応え、新たに「テニス同好会」を立ち上げるなど、教員の特技や地域の指導者（部活動指導員）を活かした活動を推進する。
- ・中高合同練習や、社会人のサークルと連携した「地域クラブ化」を模索する。

【外部流入における住居・食事問題へのアプローチ】

- ・他町の事例（厚岸町の飲食補助券システムなど）を参考に、町内飲食店と連携して下宿生の食事をサポートする仕組みを検討する。
- ・農家民泊の経験を活かし、1年単位で下宿を受け入れられる家庭を地域で募集する。

協議会の締めくくりとして、「地域が学校を作る」だけでなく、「学校が地域に還元し、地域を盛り上げていく」という循環の重要性が語られました。「大人に認められるが、子供には好かれない学校」という指摘を真摯に受け止め、地域の大人たちがまず学校を理解し、子供たちに「津別高校で学ぼう」と自信を持って勧められるような学校づくりを目指すことで一致しました。